

CONTENTS

特集

新世代ポリマーピストル

CANIK  
TP9 SFX



- 004 第30回 **サイゴン物語**  
記者たちのベトナム戦争 [7]  
Saigon Memories
- 025 **[現用米軍装備カタログ]**  
1990年代後半のアメリカ空軍特殊部隊装備CCT特集  
The Equipments of the U.S. Force
- 036 **KIMBER CUSTOM CDP & ベレッタM1934**  
カーボンブラックHW ver  
ウエスタンアームズ新製品リポート
- 044 **新製品情報 COMBAT mono**  
ボスゲリラ不屈のトイガン魂!
- 046 **サバゲ・マスカラ・コントラ・マスカラ!**  
東京マルイ 新製品リポート ●by Takeo Ishii
- 050 **コンパクトキャリヤガスガン「LCP」**  
「BODYGUARD 380」 &  
「ソードアート・オンライン オルタナティブ  
ガンゲイル・オンライン」  
限定コラボモデル AM.45
- 056 **トイガンニュース**  
●タナカ SIG P229 EVO2 FRAME HW  
●タナカ S&W M10 MILITARY & POLICE  
4INCH HW Ver.3
- 061 **月刊 THE グリーンベレー** ●文と写真/DJちゅう  
**GREEN BERET**  
**GREEN BERET2021**  
ニッポンのちからこぶ ●写真と文/菊池雅之
- 068 **Phantom Forever** 世界で愛された“亡霊”  
Militaria Roundup!
- 072 **トンプソンM1928A1/M1**  
サブマシン・ガン Part 2

- 078 **シン・サバゲ三等兵**  
サバゲ三等兵オリジナルパッチ製作への道!  
国際エンサイクロペディア
- 082 **ミリタリーとファッション**  
Illustration and text/M. Kelly  
ミリタリーアイコン
- 088 **傷の数だけ戦いがある服のリペア**

COMBAT FRONT LINE

- 008 COMBAT RECOMMEND MOVIE「ラストフルメジャー」
- 010 COMBAT RECOMMEND MOVIE「アウトポスト」
- 012 新作映画情報「カポネ」、「DAU」
- 013 ベトナム戦争雑学事典2
- 014 リスクコントロール通信 NO.4
- 015 今月の中田焦点!
- 095 Stringer Blues 写真・文/横田 徹
- 098 サバゲ三等兵APS部 DJちゅう meets APS!
- 100 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉 徹
- 102 ツゲチヨリ☆ サバゲーフィールド、アテナ編
- 103 レアミリタリーテクノロジー
- 104 ミリタリーセレクトショップ 坂地組
- 105 ゲームOTT『GhostRunner』
- 109 PRESENT & CIC
- 110 バックナンバー
- 111 奥付&次号予告



ミリタリースポッター

First day covers of Vietnam War Era.

Depicting war memorial days. One for Military day of June 19, 1971 and the others for Victory of Quang Tri where the ancient citadel had been built.

切手が発売された日に切手を封筒に貼って、発売日と同一日付の消印をゲットする。それに成功したものをファーストデイカバーという。切手が記念するのは、人々の記憶に共通して刻まれるエポックメーカーなテーマが多く選ばれる。よく知られているファーストデイカバーには、NASAが人類を月に送り込んだアポロ計画の切手がある。ここにあるファーストデイカバーは、ひるがえる黄底三線旗を見て分かるとおり、ベトナム共和国時代のものである。勝利を喝采する兵士は、フラックベストを着ている。旗を立てようとしている兵士たちは、

まるで硫黄島のアメリカ海兵隊兵士を彷彿とさせる。1971年6月19日の消印がある封筒に描かれているのは、9頭身という長身の兵士だ。ベトナム人の身体イメージからは、かけ離れている。残る3枚のファーストデイカバーは、1973年2月24日のクアンチの戦いの勝利を記念している。南北に長いベトナムは、中央部分がくびれている。クアンチ省は、そのくびれ部分に位置している。省内をベンハイ河が流れ、それがベトナム民族を南北に分ける境界線になっていた。1954年のジュネーブ協定で、そう定められていた。兵士が関の声を上げ

ている砦は、クアンチシタデルである。1809年に建設され、時代を追うごとに高い壁と堀を巡らせて、要塞化した。1枚目のカバーでは、QUANGTRIのレタリングで高い壁を持つ古城を表現している。絵柄的にもおもしろいと感じられるのが、4枚目のファーストデイカバーだ。ここでは、レタリングの勢いが失せてしまっている。気取りが失せた分、自分たちが近づける城になったようだ。石垣が緩みだしており、平原のなかにある平城のようでもある。城の上で騒いでいる兵士たちが、たいへんベトナム化している。

# SHARK SHOOTER LIVE-FIRE REPORT! by Muneaki Samejima

# CANiK TP9 SFX

一部では“グロック・キラー”と呼ばれ、その評価が急上昇中の新世代ポリマーピストル CANiK TP9 SFX。シャークシューターの戦友、ニルス・ジョナサンが試合で使い、好成績を収めたことで、多くのシューターからも注目を集めている CANiKの実力に迫る!

## CANiKとは?

CANiK (カニック) の知名度は日本ではまだ低いかもしれない。僕自身も昨年のショット・ショ어의レポート (2020年4月号掲載) で同社の銃を少し紹介した程度と記憶している。CANiKは、トルコに本社を構える銃器メーカーだ。“え、トルコ!?”とピンと来ない読者も多いことだろう。だが、トルコは古くから多くの銃器メーカーがあり、その規模もかなり大きい。CZ系のクローンを製造することで有名なSAR ARMS、ベレッタやベネリとも深い関係にあるスターガーもトルコにあるメーカーだ。既存のデザインをコピーするメーカーが多い印象ではあるが、銃器製造の確かなノウハウを持ったメーカーが多く、CANiKもそんなメーカーのひとつにあたる。

## CANiKのプロ・シューター

CANiKの名前を強く僕に印象付

けたきっかけは、友人の1人でありコンペティティブ・シューターとして、数え切れない程のタイトルを持つニルス・ジョナサンがCANiK専属のプロ・シューターとして契約を結んだことだった。彼と僕は同い年であり、初めて会ったのはもう14年以上前、高校生の時だ。当時からアイアンサイトの銃をマシンガンのように撃っていたのが目に焼き付いてい

グロックやXDM等の先行モデルにまったく引けを取らない高性能を実現しながら、低価格を実現したCANiK社のTP9 SFXは、現在注目を集めているストライカー・ピストルだ。



- CANiK TP9 SFX**
- 弾数:18発
- 重量:約840g
- 口径:9X19mm
- 価格:\$549.99

る。その後、僕がアリゾナに住むようになってからも、毎週のように地元の試合と一緒に撃って交流を続けてきた。シューターとしての彼は、アイアンサイトの銃を使用する部門で、史上最強といえるだろう。僕は彼以上の才能を持つシューターを見たことがない。ニルスは長年、銃器業界に関わってはいたが、彼の夢であった「プロフェッショナル・シューター」の肩書を得るまでには、彼の腕前でもかなりの時間を要した。プロを名乗れるシューターは、世界中を見渡しても20人も居ない。試合でスポンサーのロゴが入ったシャツを着ている人は、ここ数年で相当数増えたが、彼らは真のプロ・シューターではない。銃をはじめ、各種物品の提供を無償で受けるセミ・プロや単に銃器メーカーや関連企業に勤める社員が自社製品を試合で使っている

に過ぎない。

ニルスがCANiKと交わした契約は、世界中の試合でCANiK製品を使って撃ち、各イベントにも顔を出して同社の宣伝塔として働くという完全なプロ契約だ。試合への移動費、ホテル代はもちろん、弾代も経費として会社から支払われる。そして、毎月、給料が支払われるのだ。このポジションに就いている人間を正式に「プロ・シューター」と呼ぶ。ニルスは、CANiK本社があるトルコにも度々足を運んで、製品開発にも関わ

る。シューターもゴロゴロいる。コレだけの数を撃つ警察官や軍人はほんの一部だ。つまり、試合の場で作動不良を起こすことなく、年間を通して高い成績を出すのは、シューターの腕前はもちろんだが、銃に求められる基準も最高レベルである必要がある。過去には、世界チャンピオンの実績を持つシューターが大手メーカーとプロ契約したものの銃に不備が出て、契約を途中で破棄した事もある。それで僕は心配になってしまったのだ。一方で、試合での成績なんか一般人は誰もちゃんと見てないという人もいる。こう書いてしまうと怒ら



## 過酷な競技の世界

正直にいうと、僕はニルスがCANiKと契約したと聞いた時“マジかよ……ちゃんと銃は試合で使えるのか?”と思ってしまった。というのも、試合は「実戦」以上に銃にとって過酷ともいえるからだ。要は、銃に求められる耐久性と信頼性のレベルが違う。真剣に練習するコンペティティブ・シューター達は、アマチュアでも年間2万発は撃つし、プロともなれば、8万発以上撃つ

れてしまうかもしれないが、ジュニア・シューターや女性シューターに関していえば、確かにそれは間違っていない……。彼らの場合、成績が良いに越したことはないが、求められているのは企業のパブリックイメージだ。多くのジュニア・シューターや女性シューターが同じ企業との契約が長く続かない理由がそこにある。ある程度の期間でイメージ・チェンジという訳だ。しかし、ニルスの様なプロ契約は、企業イメージの点は当然だが、試合に出るならその成績は重要。銃が作動不良を起こせば、それは大きなマイナスになってしまう。ニルスは、CANiK社のプロの宣伝塔として重

要なポジションに就いたのだ。**グロック・キラーの異名を取るストライカー・ピストル**ニルスがCANiKと契約をした約2年前、僕は彼に聞いたのを覚えている。「……ねえ、CANiKの銃、大丈夫なの?」「ムネキ、心配ないよ。CANiKの製品は、十分に試合で使えるクオリティだ。それに今後更に良くなっていく可能性があるし、ポテンシャルはかなり高い。そうじゃなきゃ、プロ契約なんかしないよ」ニルスは、僕の単刀直入な質問に笑顔でキツリと応えてくれた。その時、初めて彼にCANiKの競技モデルであるTP9 SFXを見せてもらった。撃った感じは他社のストライカ

マガジンの装弾数は、18発。十分な容量で他モデルと同等だ。

マガジンの刻印を見ると、CZシリーズのマガジン等、数多くのOEM発注を受けるMEC-GAR製なの分かる。

マガジンの底には、大型のベース・パッドが装着されており、マガジン挿入の際に確実に叩き込める。グロック等は、パッドが薄いので好んでカスタム・パーツのベース・パッドを装着する人が多いが、TP9ではその様な出費は必要ない。



通常分解した状態。パーツ点数も少なく、スプリングが飛び出したり、細かいパーツが取れることもないので簡単にメンテナンスが可能。紛失の心配もないシンプルな構成だ。

グリップ後部のバックストラップも各自の手のサイズに合わせて交換できる今どきのデザインを採用。

一・ピストルと変わらない印象だ。各部の操作性も悪くない。確かにコレなら使えそう。だが、その時撃ったのは、数十発だけであり、ニルスはまだシーズンを通して試合を撃ち始める前のことだったので、TP9 SFXの評価を下すには時期尚早だった。

そしてシーズンが始まるとニルスは結果でキッチリと銃のクオリティを証明してみせた。2019年と2020年の2シーズン、彼は全米選手権のタイトルこそ取れなかったものの、トップ3に食い込み、そのほかのメジャー・マッチでは優勝も含めた成績を残し、十分にTP9 SFXのポテンシ

ャルの高さを世間にアピールすることに成功したのだ。

彼の活躍と同時にTP9シリーズは、一部の人たちの間では「グロック・キラー」と呼ばれるようになり、グロックよりも優れているという評判が広まり始めた。この様に一般でも高評価の認識が広まると、ホルスター・メーカーを初めに各種パーツを制作するメーカーも動き出す。この2年でCANiKの評判は右肩上がりだ。ガンショップでも初めて銃を購入する人に勧める1挺として、CANiKの製品が候補になることも増え、グロック・キラーの呼び名は

TP9はシングル・アクションだ。スライドとフレームの内側を見ると、そのメカニズムの一部が見える。各種パーツはニッケル・フィニッシュ仕様だ。

エジェクションポート側は、シリアルナンバー、アメリカでの代理店であるCentury Armsの刻印、モデル名、そして、トルコ製(英語ではターキーと表記)であることを示す刻印が並んでいる。

スライド左側にはCANiKと口径を示した以外の刻印はなく地味な感じ。スライドの表面処理はセラコートだ。

フロント・サイトももちろんWARREN製で、エッジが鋭くファイバー・オプティック入りで視認性は抜群だ。

マズル・フェイスは角ばっており、最近の銃に通じるものを感じる。

リア・サイトはWARREN製が装着されている。同社は、グロック用等のカスタム・サイトも製造している。また、この部分はプレートになっており、スクリューを外せば、各種小型ダット・サイトが装着できるようになっていて、キャリア・オプティック仕様に変換可能。

アメリカ空軍特殊部隊、AFSOC (Air Force Special Operations Command) はアメリカ空軍における主要軍団組織である。

AFSOCの主な任務は、紛争地域の空域、宇宙、およびサイバー対応の特殊作戦を実施し、米国が戦争に勝つ事だ。AFSOCは司令部化に7つの航空団 (Wing) と、全体を支援する空軍特殊作戦航空戦術センター (Air Force Special Operations Air Warfare Center) など10グループで構成されている。

このうち特殊戦術部隊は3つ、第24特殊作戦航空団 (SOW/24th Special Operations Wing)、第352特殊作戦航空団第321特殊部隊 (STS/ Special Tactics Squadron)、353特殊作戦航空団320特殊部隊 (STS) である。

航空機運用のために、大きく高度な施設、整備維持・指揮管制のためのマンパワー、膨大な燃料・補修物資など大量のサポートを必要とするため、部隊の規模はとて大きく、全体としては約2万人という巨大な組織だ。

しかし地上での「特殊作戦」を行う人員はごく少ない精鋭部隊であ



る。例えば第24特殊作戦部隊隷下の第724特殊作戦群の中で、実際の戦闘に参加するのは第24STSで、これ以外の部隊は使用する機材の整備など

を行なう支援部隊である。STSは4つのチームで構成される。  
1. パラレスキュー (PJ)  
2. CCT (Combat Control Team)

3. SOWT (特殊作戦気象観測チーム)  
4. TACP (戦術航空統制班) ALO (空軍連絡将校)、JTAC (統合末端攻撃統制官)

## IBH (Integrated Ballistic Helmet/完全防弾ヘルメット)

95-96年製造で2000年代初頭まで活躍している。



専用マウントにはANVIS両眼ナイトビジョンを装備可能になっている。

## ブラックホーク・インダストリー (BHI) 製TLBV (Tactical Load Bearing Vest)

OD色TLBVを装備。前面のポーチ構成は官給品と同じだがショルダー・パッドや背面のパネルなどに若干のメーカー・デザインが出ている。

FASTEXの製造は1994年なのでBHI設立間もない時期に製造されたTLBVとなる。



兵士中央の左右マガジンはM4マガジン1本、脇に近いポーチには各2本入っている。下はハンドグレネード(手榴弾)ポーチ。

TLBV裏側のBHI初期のタグが見える。

## 1997年空軍特殊部隊装備①

この時代に見かける空軍特殊装備としてはIBH (Integrated Ballistic Helmet/完全防弾ヘルメット) が有名だ。実際の写真ではブラックホーク・インダストリー製のタクティカル・ロード・ビヤリング・ベストを装備し、ABA無線機ポーチ等、装備専門メーカーの製品が目立っている。ALICEバックにはAN/PRC-113マンパック・ラジオが入っている。ピストルベルト左右の支給品M16マガジン・ポーチには発煙筒や風量計などのアイテムを入れている。



ALICEバックに収納されたAN/PRC-113。

## AN/PRC-113 マンパック・ラジオ

グナヴォックス・アメリカ社によって製造され1986年に実戦配備された。ポータブルVHF AM航空機帯域とUHF AM航空機帯域を持つトランシーバーだ。

# KIMBER CUSTOM CDP



エッジを適度に落としたキャリー・メルト・トリートメントがCDPの大きな特徴。ロー&フェアバック・スタイルのエグゼクショナルポートも、エッジが落とされている。

- キンバー「カスタムCDP」**
- 全長:約220mm
  - 銃身長:約114mm
  - 重量:約860g
  - 装弾数:21+1発
  - 価格:4万9,500円
  - 絶賛発売中!!

のコンセプトを引き継ぎ、キンバー独自のキャリー・メルト・トリートメント・フィニッシュを採用するシリーズだ。シンプルにして機能的なパーツ構成と、全体に角を落とした丸味のあるデザインが、コンパクト・セミオート・ファンを魅了した。近年のCDPは、エッジの削り落としをやや抑え、スナッグ・フリーながらM1911のイメージを強めに残した、適度なメルト・フィニッシュにマイナーチェンジ。細部のデザインや仕様も若干変化して、より戦闘能力の高いクローン・ガバメントへ生まれ変わっている。

多くの政府・警察機関が採用する高精度クローン・ガバメントのメーカーとして知られるキンバーは、1979年に高性能スポーツ・ライフルのメーカーとしてスタート。その後、低価格&高精度のクローン・ガバメントを製作して、セミオート市場にデビューを果たした。当初は、モデルバリエーションが少なく、リーズナブルな価格帯でM1911をリリースするメーカーという程度のポジションだったが、海兵隊遠征部隊やLAPDスペシャル・チームが制式採用したことで一気に評価が上がり、現在では豊富なバリエーションで、M1911クローンを製作している。

高性能で高品質、手頃な価格で製作されたラインナップの中で、ストリート・ファイト用として強烈な個性と存在感を放つのが「カスタムCDP」シリーズ。1980年代に、究極のキャリー・カスタムとして異彩を放った「ボブチャウ・スペシャル」

のコンセプトを引き継ぎ、キンバー独自のキャリー・メルト・トリートメント・フィニッシュを採用するシリーズだ。シンプルにして機能的なパーツ構成と、全体に角を落とした丸味のあるデザインが、コンパクト・セミオート・ファンを魅了した。近年のCDPは、エッジの削り落としをやや抑え、スナッグ・フリーながらM1911のイメージを強めに残した、適度なメルト・フィニッシュにマイナーチェンジ。細部のデザインや仕様も若干変化して、より戦闘能力の高いクローン・ガバメントへ生まれ変わっている。

素材は、今回も重量と硬質感に定評のあるCBHW。最近では、サンドブラストや黒染め液などでフィニッシュしたモデルが多くなっているが、カスタムCDPではスライドをマット・シルバー、フレームをやや艶のあるマット・ブラックに塗装してい



フロント・ストラップには、キンバー・オリジナルに合わせた30piのチェッカーを加工。パッカーウッドに独特の模様を刻んだグリップが鮮烈な印象を与える。

※撮影用モデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様異なる場合があります。

# COMPACT CARRY GAS GUN

# LCP

Photo & Text by Takeo Ishii

株式会社 東京マルイ

☎03-3605-1113

www.tokyo-marui.co.jp



## 小型護身用拳銃ながら 「革命的な飛距離と 命中精度」を実現!

実銃のLCP (ライトウェイト・コンパクト・ピストル) は、頑丈かつ廉価な製品で愛されるアメリカの銃器メーカー、スタームルガー社が2008年から発売している護身用小型拳銃だ。ガラス繊維で強化されたナイロン樹脂フレームを採用。極限までの小型化・軽量化を追求しつつ、対

人用として十分な威力を発揮する.380ACP弾を本格的なショートリコイル・メカニズムで安全に軽快に撃てる、という事でベストセラーになっている。

東京マルイのLCPはそんな実銃の性格を反映したシンプルな固定スライドガスガンだ。黒染されたステン

レス製スライドと樹脂フレームが織りなす実銃LCP独特の風合い=素材の違いがもたらすコントラストが、東京マルイの高い技術力によって鮮やかに再現されている。

発射方式は実銃同様にダブルアクション・オンリーだが程よく軽いトリガープルで撃ち易く、インナーバレルは短いながらも精密な真鍮製。高品質なHOP-UPメカニズムとも相まって、このサイズのトイガンとしては革命的なBB弾の飛びと命中精度を実現している。

従来は低価格商品ばかりだった小型拳銃の世界に、実銃を彷彿とさせる本格的なフォルム・重量感・リアルさ、そしてサバイバルゲームやシューティングでも充分に活躍できる実射性能を備えたシリーズが加わる。じつに嬉しい事ではないだろうか?



●全長:131mm ●最大幅:21.4mm(※実測値)  
●銃身長:67mm ●重量:263g(※実測値)  
●パワーソース:ノンフロン・ガンパワー ●作動方式:固定スライドガスガン、ダブルアクション、固定HOP-UP搭載 ●装弾数:10発  
●パワー:0.252ジュール(※実測値=室温24度、湿度29%、0.2gBB弾による10発の弾速「最高値51.9m/s~最低値48.5m/s」の平均「50.24m/s」より算出) ●価格:8,778円

コンパクトさもさる事ながら、LCP最大の特徴はこの薄さ! フロント&リアサイトも衣服等に引っ掛からぬよう配慮された造り。側面唯一の突起がセフティ機能のあるスライドストップで、ここが最大幅「21.4mm」。上方に押し上げると「ON=安全」だ。



装弾数10発のマガジンは熱効率の良い亜鉛ダイカスト製で重さは129g。小さく薄いのだが固定スライドガスガンならではの省エネ設計らしく、ノンフロン・ガンパワーを満タンにした状態から80発も撃てた(室温24度)。別売スベアマガジン 2,728円

15歩(=13~4m)先の350ml缶でもよく狙えばかなりの確率で中(あ)てられ、0.20gBB弾が25m近くもフラットに真っ直ぐ飛ぶ。「これは凄い!」と撃てば誰もが思うはず。



# GREEN BERET 2021

文/DJちゅう 写真/織本知之 撮影協力/MilSimFarEast



月刊

# THE グリーンベレー GREEN BERET vol.29



さあ〜皆様大変お待たせしました、久方振りのグリーンベレースタイリング特集です。なんと今回は2021年！最新すぎるのにもほどがありませんか。ですが、やりたかったんですね、そろそろ最新特集をと。正直2021年を名乗るには恐れ多い気もしましたが、グリーンベレーフリークな方達のご協力もいただけて、最大限に最新支給アイテムを盛り込んだスタイリングを今回ご紹介できてるんじゃないかなと思います。タイトルのインパクトもいいですね。

# GREEN BERET 2021

## MOS 18B Special Force Weapons Sergeant STYLE

### MOSとは

Military Occupation Specialtiesの頭文字を取って“MOS”と呼ばれるアメリカ軍における職種専門技能のこと。グリーンベレーは陸軍MOS特殊部隊18ナンバーに分類されたMOSを取得しています。18A (ODA指揮官将校: Special Forces Officer ※以下 Special Forces: SF)、18B (武器兵器: SF Weapons Sergeant)、18C (工兵: SF Engineer)、18D (医療: SF Medical Sergeant)、18E (通信: SF Communications Sergeant)、18F (作戦補佐情報: SF Assistant Operations and Intelligence Sergeant) や、もっとも高度な訓練を受けた18Z (シニア: SF Senior Sergeant) また特殊部隊資格取得前の18X (SF Enlistment Option) があります。12名のODA (Aチーム) は上記のMOSを持った隊員らが集まり構成されています。



### Patagonia L9 Combat Shirts CRYE PRECISION G3 Combat Pants

もはや何度登場させたことかですが、やっぱり定番L9ウェア。トルソーまでマルチカムカラーが今のところ最新モデル。パンツもL9がやはり定番ですが、CRYEを履いている隊員もちらほら見受けられますので今回はG3をチョイスしてみました。



### OAKLEY M7フレーム3.0

Dark Boneカラーフレームの支給モデル。クリア、スモーク、PRIZMレンズがセットで支給されています。



### CRYE PRECISION AVS (MBAV Plate Pouch)

なんだかんだで圧倒的に使用例の多いAVS。JPC2.0もちらほら居ますが、現行GBを再現するならMBAVカットのAVSを選んでおけばまず間違いはないかと。新しいロットはCTEEdgeの1inchマルチカムウェビングに切り替わっています。フロントパネルを好みで選択できるのがAVSの強みですが、1番シンプルなDETACHABLE FLAP, MOLLEを選択しましょう。※こちらは旧ロットモデル。止血帯はTIMEラベルがグレーになったりと細部がマイナーチェンジしたC-A-T GEN7。あと、凄く分かりづらいですが、左カマーバンド内側へ取り付けられたラジオポーチは、パタつき防止ストラップが追加されたTYR Drop Down Tilt-Out style MBITR 152 Pouch。それと、フロントについたFirstSpear 3 Mag Triple Shingle for 5.56は2段になっている短い丈のデザイン。どちらもSOFLCSアイテムです。



### OPS-CORE FTTHS ヘルメット

おそらくホビー面で取り上げるのは本邦…いや宇宙初公開であろうオプスコア最新のSOF向けモデル。従来のFASTマリアタイムの基礎形状をベースとし、NVGシールド (Modular Bungee Shroud Kit)、サイドレール (Skeleton Ops-Core ARC Rail Kit)、ライナーなどデザイン変更、素材も見直されより軽量で保護力が高いモデルとなっています。もともとFAST SFがベースとなっていますが、SOCOMによる特殊部隊向け新型ヘルメットシステム: FTTHS (Family of Tactical Headborne Systems) の一環で調達されたもので、判りやすい所と言えばベルクロの形状やHead-Locシステムなど細かな点で若干仕様が異なっています。サイドレールに接続されたヘッドセットは、SOCOMによるCASL (Communication Accessory Suite Land) プログラムの一環として2019年5月16日に採用された、新型オプスコア製AMPヘッドセット (レプリカ)。すでにどちらも使用例はちらほら出てきましたが未だ少数ですので、これから徐々にグリーンベレーの間でも普及されていくのが期待されます。メットとヘッドセットはマジな最新アイテムですので今後要チェックです! デザインが昔思い描いたSF (サイエンスフィクション) にどんどん近づいており個人的にはワクワクしますね。ちなみにヘルメットのオプションとして付いているアクセサリは、PVS-31+パワーケーブル、WILCOX L4G24、CORESURVIVAL HEL-STAR6、FERRO CONCEPTS PVS-31 BATTERY RETENTION SYSTEMとなっております (実・レプリカ含む)。



### FIRST LINE GEAR

RONIN TACTICS製SENSHIベルトに各種SOF-LCSポーチとSafariland 6354DOホルスター。ピストルはGLOCK19がベターです。ファーストラインで使用されるベルトは、近年ではコブラバックルを採用した細身でモジュラー式のデザインが好まれる傾向にあります。



### M4A1 BLOCK3 URG-I

東京マルイから遂に次世代電動ガンとして発売されましたね! 現用GBをするならまずコレは外せません。ありがとうございますマルイ様…! さてさて、取り付けたオプションのaimpoint T2+UNITYハイマウントは最近のトレンド。そして遂に支給が始まった新型レーザーモジュール: L3 Insight Technology社NGAL (Next Generation Aiming Laser) は、従来のAN/PEQ-15 LA-5Lに取って代わる最新モデルです (写真はダミー)。ウエボライトは基本的にINSIGHT社WXM200がベターですが、ここ数年SUREFIRE M600スカウトライトの使用例もチラホラと見受けられます。何かしらの理由がありそうですね。グリーンベレーでは取り付けるオプション類は支給品のみで無く、ある程度個人の自由で選択できますが、今回スリングはVTAC、ストックはMAGPUL社MOE SLストックに換装しています。



### AN/PRC-152A

PRC152ダミーモデルが市場で販売され始めの頃、最初にモデルアップされたのは156Aでした (と言っても形はだいぶ違いましたが…) が、当のGB達はGPS無しのPRC152を使っていたので、背面を加工してそれっぽく仕上げていたのを覚えています。時間が経って、気がつく和使用しているラジオはGPS付きの152Aに切り替わっているという逆転現象が起きていたのです。うーん、もう! …って事で最新を再現する場合は“A”をチョイスしましょう。

### KAGWERKS Galaxy S9 Kit

EUDの更新が未だ過渡期のような気がします。ケースも稀にJuggernaut.Caseが使用されることもあり今後どちらのケースが定番化するのか、はたまたもっと新しいモデルのディバスに随時変わっていくのか…端末機器に関してはその時々なアイテムですが、現状S9が最新アイテムでしょう。Galaxy S5の流れからか使用例は、やはりKAGWERKS製ケースが多い気がします。



# Phantom Forever

## 世界で愛された“亡霊”

東西冷戦真っ只中の日本の空を守ってきた「F-4EJ/EJ改ファントムII」——。昭和、平成、そして令和と3つの時代を駆け抜けた亡霊(=ファントム)はついに引退することになった。そこで、最後の雄姿を捉えるべく、百里基地、浜松基地、岐阜基地へとフライアブルなファントムの追っかけロケを敢行した!

日本の空を守り続けてきた「F-4EJ/EJ改ファントムII」がまもなく全機引退する。

開発国であるアメリカで初飛行に成功したのは1958年の事。その後、米空海軍、海兵隊へと配備され、ベトナム戦争で活躍。世界はファントム

に注目した。

その結果、イギリス、西ドイツ、スペイン、オーストラリアなどへと輸出、またはライセンス生産され、全世界で実に5,192機が飛ぶベストセラー戦闘機となった。今では考えられないが、なんとイランにも輸出さ

れている。アメリカとイランの関係が良好だった時期もあったのだ……。

日本もそんな国のひとつだ。航空自衛隊創設時からの主力戦闘機であった「F-86セイバー」の後継機種として、ファントムが選定され、まずは米国で日本向けに2機が製造

された。初号機となったのが「301」号機だ。

1971年1月14日に初飛行に成功すると、同年7月25日、米国人パイロットの手で太平洋を横断し、小牧基地へと運び込まれた。ここで三菱重工による試験等が行なわれ、後の

飛行開発実験団(岐阜基地)となる実験航空隊に引き渡された。

1972年8月1日、百里基地(茨城県小美玉市)にて「臨時F-4EJ飛行隊」が新編されると「301」号機は、パイロット教育用の教材となった。

73年「臨時F-4EJ飛行隊」は「第301飛行隊」となった。

部隊マークは黒いカエル。基地近傍の筑波山名物“ガマの油売り”にちなんで「ガマガエル」だ。ご当地キャラの走りであるとともに、そこには“無事帰る”というメッセージも込められている。

教材としての役目を終えた「301」号機は、百里基地を後にすると、ふたたび実験航空隊へと戻り、各種試験や実験に使用された。

当時は、日本にしか認められなかったライセンス生産により、日の丸ファントムは続々

と増え、それに伴って部隊も増えていった。総数は154機にもなった。

そして1981年——。

最後のファントムとなる「440」号機が引き渡された。数字を平仮名にあてて“ししまる”と呼ばれ愛されたこの機体は、日本最後のライセンス生産機というだけでなく、全世界で生産されたファントムの最終号機ともなった。

そして2021年。この年がファントムのラストイヤーとなる。

どんととファントム部隊がなくなり、最後まで残ったのは百里基地に所在する第301飛行隊だった。奇しくも、日本初のファントム部隊が日本最後のファントム部隊となったのだ。

2020年11月20日、百里基地にて「第301飛行隊壮行会」が開催された。式典に先立ち、関係者へのお披露目として、機体全体を黄色と青色に塗った2機の特別塗装機がフライトを行なった。青い方の機体横には「Phantom Forever (ファントムよ永遠に)」、黄色い

方の機体には「Go For It! 301SQ (頑張れ! 第301飛行隊)」とそれぞれ書かれていた。

同年12月10日、第301飛行隊はラストフライトを行なった。そして12月15日、ファントムの運用を終えた。現在は、三沢基地へと移駐し、2021年度より、F-35A部隊となるべく準備をしているところだ。

話は前後するが、2020年12月1日にある別れがあった。最終号機「440」号機のラストフライトだった。世界で1番“若い”ファントムである“ししまる”は、この日、百里基地を飛び立ち、浜松基地へと向かった。

到着後「440」号機の歓迎式典が行なわれ、この日をもって“ししまる”はもう2度と飛び立つことはなくなった。このまま、浜松基地広報館「エアパーク」に保存展示される。浜松が終の棲家となったのだ。

こうしてファントムを有する戦闘部隊が消え

た今日「もはやファントムは残っていないのか……」と悲嘆にくれるあなた! ちょっと待って欲しい。

実は、まだ飛行可能なファントムがある。それは、飛行開発実験団の5機のファントムだ。いずれもまだかろうじて現役だ。

驚くなかれ、その5機の内の1機は、あの「301」号機だ。日本で、いや世界で1番“若い”「440」号機が引退し、1番の“年寄り”である「301」号機が残るとは……。老兵は死なずとはまさにこのことだ。

この部隊は、スクランブルや戦闘訓練等は行わず、システムやミサイルの試験や研究を行なっている。そのため、第301飛行隊のような第一線戦闘部隊に配備されるファントムとは違い、飛行時間は少ない。それゆえにエンジンや機体の耐用年数にも残りがあるのだ。

しかしながら、こちらのファントムもすでに引退までのカウントダウンに入っている。世界中で愛された亡霊が消える——。そう遠くないその日を迎える前に、少しでも興味のある読者はぜひその目にファントムの雄姿を焼きつけて欲しい。



# サバゲ三等兵 オリジナルパッチ製作への道!

●写真と文/織本知之 ●撮影協力/狩野健一郎 ●スペシャルサンクス/DJちゅう

「諸君、どうだろう？ そろそろ我々も部隊章を作ってみようかと思うのだが……」

そう千葉隊長が切り出すと、いつもは寡黙なシェフ狩野が重い口を開いた。「オデ、5年越しの夢があるだけで……」

さかのぼること2016年秋。惜しまれつつ、刊を重ねることを一度お休みすることにした雑誌があった。そう、賢明な読者諸氏ならば記憶にあるのではないだろうか？ ミリタリースタイルをよりスマートに、カジュアルに、さらにはガーリーにまで昇華させ、我々の生活によりミリタリーを溶け込ませることを主旨とした志の高いムック、そう『ミリスマ』

である。その最後の号にオリジナルワッペンデザインの企画を広く公募した企画があったのだ。その企画にシェフ狩野氏はひっそりと応募していたのである。

その時すでにシェフ狩野氏は本誌で仕事をしていて、いわば中のヒト。となれば『それは反則じゃないか？』という意見もありまじょうが、よく考えて頂きたい。これはまごうことなきシェフのミリタリー愛の発露。自身がデザインしたミリタリーパッチで、ニュートラルな状態で勝負したかったからなのであります。

しかし！ あの名コメディアンの子チャップリンが自分のモノマネコンテストに本人を隠して出場したとこ

ろ「予選敗退」してしまったというようなオチがつく前に、このコンテンツは残念なことに『ミリスマ』の休刊に伴い、有耶無耶になってしまったのです。ただ、当時を思い出した関係者が「応募名見てマジでウケたやつだ。でもパッチのデザインはカッコ良かった！」という回想をしておりますゆえ、惜しいトコロまで上り詰めたはず。世が世ならそのパッチデザインがカタチになっていたやもしれません。

「よーし！ それじゃふたたびオリジナルパッチデザイン発動だ！ ただし、我々だけでは心もとなない。その道のプロを招聘しよう」と千葉隊長が頼ったのは弊誌連載「月刊グリ

ーベンレー」でおなじみのDJちゅう氏。なんと、ちゅう氏はこの色の白さと若さで『3 MADE ISSUE (スリーメイドイシュー)』というオリジナルブランドを立ち上げ、デザインやイラスト、オリジナルグッズなどを手がけている大活躍のクリエイターなのであります。

3人合わせればライター、シェフ、カメラマン、エディター、デザイナー、柔道家という専門ジョブが揃っていないが我々三等兵とはまたえらい違いのDJちゅう氏。ナマイキな……いや、この頼りになるインストラクターのもとでサバゲ三等兵オリジナルパッチ、デザインしてみました！

## DJちゅう氏の力作パッチの数々

この色とりどり、カタチさまざまなワッペンひとつひとつがオリジナルデザインなのであり、ひとつひとつのデザインコンセプトを聞けば、その背景に練りに練られたストーリーが展開される。それを拝聴しつつ脳内の神経細胞からミリタリーシナプスをびゅっびゅっとな分泌させてゆく作業がいとおかし。

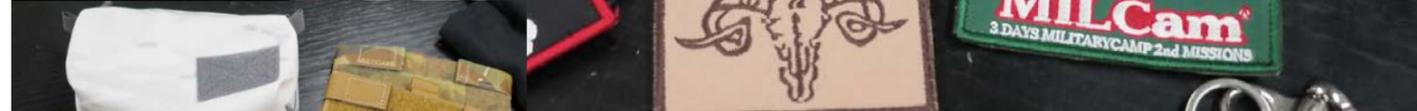
こちらは「3 MADE ISSUE」のオリジナルグッズ。右上が人気のスマートフォンをチェスト位置で保持収納できるテーブルタイプのスマホポーチ。左下が特殊部隊のセフティランヤードにヒントを得たジャックルセフティキーリング。ウェブタブをひっぱるとワンアクションでリリースできるスグレモノ。右下が新発売のジョーイリテーナーストラップとピストルブレス用ストラップ。どれもこれも優れモノにて物欲やうやう増してけり。

## ちゅう氏が語る「ミリタリーデザイン史からひも解くワッペンの役割とオカズに困らない家庭菜園の関係性」



「福岡って旨いもの多いんですよ。今度みんなで行きましょう！ 案内します！ え、カッコイイワッペンのデザインですか？ それは……あ、ネギは水耕栽培より土のほうが相性が合うかも」と語るDJちゅう氏。

某有名アーティストの作品にインスピレーションを受けて製作したパッチを手に「え！ 僕も○○○○のような印象を受けたんですよ！」とデザイナー同士共通の感性で盛り上がるDJちゅう氏とシェフ狩野。インタビュアーの広報オリモはまったく知らないアーティストで、千葉隊長にいたっては机の下で我知らず股間揺く。善き也。



さあ、抑圧された俺たちを解放してくれ



ジョーイリテーナーストラップの使い方を説明するちゅう氏。スリングの処理や、止血帯をホルスターなどの装備に縛りつけるときにスマートにキメラれる。

米陸軍特殊部隊のモットー「DE OPPRESSO LIBER」を胸にあしらったTシャツなどウェアも充実の3 MADE ISSUEのHPは <https://3madeissue.localinfo.jp/>。一度のぞいてみてください！



ちゅう氏の思い入れ深い作品群を前にワッペンデザインの気付きを得るサバゲ三等兵デザイン科生徒。お馴染みのアウトドアブランドを彷彿させるデザインもよく見ると別の鳥、よく見ると稜線が違うのです。リスペクトとアレンジを融合させ、より魅力的な作品に仕上げてゆく手法を学ぶ。



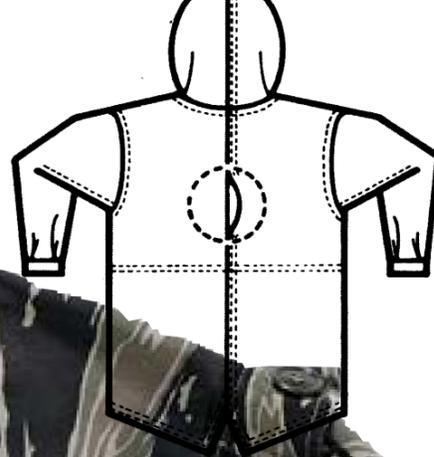


# 傷の数だけ戦いがある 服のリペア

いかにタフな戦闘服といえども実戦になればダメージを負う。傷付いた服を生き返らせるため軍にはリペアを専門とする者がいる。その仕事ぶりを見ればミリタリーと服の関係がいかに深く、いかに大規模であるかがわかります。

構成 / コンバットマガジン編集部  
文 / 鈴木健太郎  
Photo / U.S. ARMY, WPP Collection

前身頃が大きく裂けてしまったタイガーストライブジャケット。この迷彩服は無数のバリエーションがあるため修理に使われた当て布の厚さや迷彩パターンが異なることが多い。また小さいサイズの物を切り継いで大柄なアメリカ人用にリサイズした例も良く見られる。

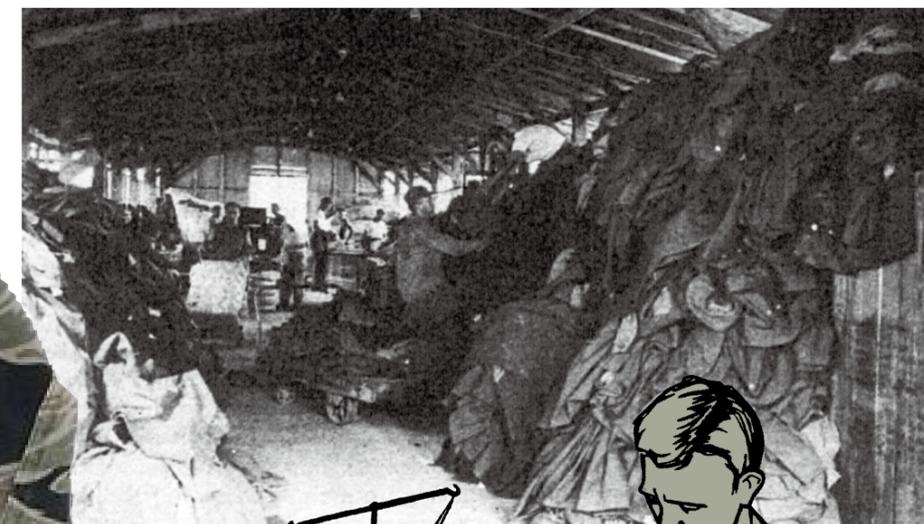
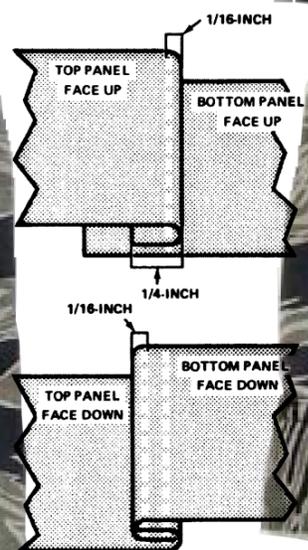


## 軍と民間の二人三脚

アメリカ軍は第1次世界大戦に参戦した当初、服の修理を兵士1人1人に任せていたのだが、戦局が進むにつれて個人の手には負えなくなり、陸軍需品科に回収と修理を専門とする部隊が編成されるとともに多くのフランス人女性が雇い入れられて服の修理にあたった。第2次世界大戦ではオーストラリア、ニューギニア、イタリア、フランスに大規模な修理センターが置かれ、需品科の記録によれば、ナポリの修理センターにおいて1943年12月

から1945年6月の間に夏用シャツとトラウザーズだけで222万7857着を修理し、冬用シャツとトラウザーズ、レインコートを加えるとその数は443万9061着に達した。この戦争では軍と民間に加えて捕虜も修理センターで働いており、戦地には修理設備を搭載したセミトレーラーが新たに投入されて作業効率は大きく向上したのだが、兵站が十分に機能しなかった朝鮮戦争では多くの日本人女性が驚くべき器用さで服の消耗を防いでいた。ベトナム戦争においても服の回収と修理は

あまり上手くいかなかったようで、陸軍第1兵站部による1969年のレポートには「修理可能な戦闘服が大量に破棄されていく中で、地元の民間業者に修理を依頼し、1968年7月から1969年6月の1年間におよそ230万ドルを節約した」と記されている。さらにレポートではボディアーマーの修理についても触れられているのだが、興味深いことにこの修理は横浜の在日アメリカ陸軍調達局を通じて行なわれ、同じく68年7月から69年6月までの間に節約した金額は推定で10万ドルだった。



山の様に積み上げられた服を見ると回収だけでも容易な作業でないことが良くわかる。回収と修理を行なう部隊は中隊規模で編成され、服のほかにも装備品や靴まで扱っていた。



ミシンを扱う者は戦地では非常に重宝され、その仕事は修理、改造、仕立てと忙しい。下に写るのは発電機とミシンを備えたセミトレーラーで、中隊における定数は2両だった。

